

特別企画展

きもの の と 色

「^{あい}藍と^{くれなゐ}紅を中心

学内限定公開

2020.10.15  木 ~ 11.19  木

【開館時間】9:30~17:00 (入館は16:30まで) 【休館日】土曜・日曜・祝日

入館
無料



東京家政大学博物館
東京家政大学内・百周年記念館5階展示室

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1 Tel.03-3961-2918
<https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/museum/>



新型コロナウイルス感染症等の事由により会期等が変更になる場合があります。最新の情報は当館HPをご確認ください。

特別企画展

きものと色

— 藍と紅を中心に —

学内限定公開

2020.10.15 木 ~ 11.19 木

【開館時間】9:30~17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】土曜・日曜・祝日 【入館料】無料

しろ、くろ、あか、あお…私たちの衣服は様々な色にあふれています。

衣服を染めるのにはさまざまな染料が使われますが、現在使用されているそのほとんどは合成染料です。19世紀の中頃に世界初の合成染料が発見されるまで、私たちは動植物から抽出できる天然の染料によって色を得ていました。

日本の色彩文化において欠かせないのは藍色と紅色でしょう。藍色は、日本のみならず世界においても「ジャパン・ブルー」と呼ばれ親しまれています。紅色は、ハレの日の衣服の色であり、華やかに粧うための色でもあります。

それぞれの色を染める染料は、藍と紅花という植物から作られます。藍と紅花は染料のひとつでありながら、それぞれ独自の文化を築き上げ、再び注目が集まっています。

本展では、主にこの藍と紅花で染められた小袖や染料などの展示を通して、自然から得られる「色」の魅力を見つめ直します。

さらに、東京家政大学の校祖渡邊辰五郎の出生地である千葉県長南町と長南紅花についてもご紹介します。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



表面 右：打掛 紅紬子地立涌菊牡丹模様 江戸時代・19世紀 左：打掛 縹縹子地松竹梅御簾模様 江戸時代・19世紀

裏面 ①着物 縹木綿地桜牡丹登り鯉模様 明治時代・19世紀 ②着物 桃色縮緬地 平成17(2005)年 長福寿寺蔵

③火事羽織 縹木綿地丸に剣片喰紋付 江戸時代・19世紀 ④紅猪口 明治時代・19世紀 ⑤着物「藤波揺影」(部分) 平成20(2008)年 土屋順紀作

⑥陣羽織 猩々緋羅紗地蛇の目紋付 江戸時代・19世紀 共立女子大学博物館蔵 ⑦火事羽織 黄羅紗地木瓜に違鷹羽紋付 江戸時代・19世紀 個人蔵
所蔵先表記のないものはすべて東京家政大学博物館蔵

常設展のご案内【入館無料】

常設展①学園の歴史

- ・学園の歴史と創設者
- ・渡辺学園裁縫雛形コレクション
- ・渡辺学園の歩み



常設展②コレクション展示

日本の食 - 調味料のさしすせそ -



東京家政大学博物館

東京家政大学内・百周年記念館5階展示室

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1 Tel.03-3961-2918

<https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/museum/>

新型コロナウイルス感染症等の事由により会期等が変更になる場合があります。最新の情報は当館HPをご確認ください。